



《石造 如来坐像》

# 美をつくし

vol. 193

大阪市立美術館だより  
令和2年3月1日発行

MI WO TSUKUSHI  
WI MO IZUKUSHI

# フランス絵画の精華 ルネ・ユイグのまなざし —大様式の形成と変容

2020年4月11日(土)—6月14日(日)

この展覧会では17世紀古典主義から19世紀後半の印象派誕生前夜に至るまで、フランス絵画の最も偉大で華やかだった時代の傑作の数々をお楽しみいただきます



フィリップ・ド・シャンパーニュ 《キリストとサマリヤの女》  
1648年 カーン美術館  
Musée des Beaux-Arts de Caen, Photo M. Seyve

## 第1章「大様式の形成、17世紀：プッサン、ル・ブラン、王立美術アカデミー」

17世紀、フランス絵画の新たな発展を支えたのは、ルイ14世のもとで創設された王立美術アカデミーで、フランス美術の古典主義を推進します。この展覧会では、ルイ14世が「大王」と呼ばれたことにちなみ、古典主義を「大様式」と呼ぶことにします。その成り立ちに最も重要な役割を果たしたニコラ・プッサンや、フィリップ・ド・シャンパーニュ、シャルル・ル・ブランらの名品を紹介します。

## 第2章「ヴァトーとロココ美術 — 新しい様式の創出と感情の表現」

18世紀のフランス美術を代表するロココ美術は、それまでの王侯貴族の権威を表現する壮大なモニュメントとしての芸術ではなく、より軽やかで優美な、見て楽しいものを目指しました。優雅な宴を描く「がえんが雅宴画」というジャンルを生み出したジャン＝アントワヌ・ヴァトーや、ロココを代表する画家フランソワ・ブーシェ、風景画で知られるクロード＝ジョゼフ・ヴェルネの作品などが見どころです。



フランソワ・ブーシェ 《羊飼いのイセに神の姿をみせるアポロン》  
1750年 トゥール美術館  
Photo (C) RMN-Grand Palais / Agence Bulloz / distributed by AMF



ジャン＝アントワヌ・ヴァトー 《ヴェネチアの宴》  
1718-19年頃  
エジンバラ、スコットランド・ナショナル・ギャラリー  
National Galleries of Scotland. Bequest of Lady Murray of Henderland 1861

クロード＝ジョゼフ・ヴェルネ 《海、日没》  
1748年 リール美術館  
Photo (C) RMN-Grand Palais / Jacques Quecq  
d'Henripret / distributed by AMF



## 3章「ナポレオンの遺産 — 伝統への挑戦と近代美術の創出」

18世紀末のフランス革命から印象派誕生前夜までの展開を追っていきます。古典主義を受け継ぎつつ、独自の表現を生み出したのが、新古典主義の代表的な画家ジャン＝オーギュスト＝ドミニク・アングルです。ウジェーヌ・ドラクロワはフランスのロマン主義を代表する画家、アレクサンドル・カバネルは19世紀のアカデミズムを代表する画家として知られます。そして、伝統的古典様式、すなわち大様式、をまったく新しいものにしようとしたのが、「近代美術の父」と呼ばれるエドゥアール・マネでした。



ジャン＝オーギュスト＝ドミニク・アングル 《オルレアン公フェルディナン＝フィリップ、風景の前で》  
1843年 ヴェルサイユ宮殿美術館  
Photo(C) Château de Versailles, Dist. RMN-Grand Palais / Christophe Fouin / distributed by AMF

## 寧化に黄慎の遺址を訪ねて



黄慎「仙子漁者圖」

本館所蔵の阿部コレクション中に黄慎「仙子漁者図」がある。黄慎(1687-1772頃)は字を恭寿といい、癭瓢・放亭・硯耕などと号した。詩書画とりわけ人物画に優れ、「揚州八怪」の一人に数えられる。「揚州八怪」とは揚子江畔に栄えた商業都市揚州を舞台に活躍した書画家の一群を指すが、それぞれの出自や経歴は様々である。

黄慎とはといえば、本図の落款に「寧化黄慎」とあるように、今の福建省寧化県の出身である。貧しい家庭に生まれ、14歳で父を喪い、苦学しながら画を売って生活を支えた。各地を遍歴して画名を挙げ、雍正2年(1724、38歳)から同12年の間、揚州に客寓した後、老母を養うため寧化に帰った。そして乾隆16年(1751、65歳)再び揚州に来て盛名を負い、同22年まで滞在、以後は福建で売画生活を送りつつ寧化の家中に没した。

今秋「揚州八怪」展を開催するにあたり、黄慎の故居や墓地などが今も残されているとの情報から、遺址の調査に赴くこととした。揚州から遠く離れた彼の故郷を訪れ、その地理を知り、風光や習俗を体感することは、その詩文や書画を理会するうえで大きな一助となるからでもある。

さて寧化は、福建省とはいえ、福州・泉州・厦門などの沿海の大都市とは異なり、江西省境に近い山中にある。この辺りをバスで走ると、幾重もの山々の合間にある平地に町や村が点在していることが判る。年々道路事情が良くなっているとはいえ、厦門から高速バスで4時間弱を要する(今回は寧化まで30km余のところまでバスが故障したため、5時間以上かかった)。街の広場には郷里の誇り黄慎の立派な肖像が立っていた。

着後、寧化城中にある黄慎紀念館(故居)を訪ねてみた。場所は「寧化县翠江鎮紅色巷4号」。百度百科では「紀念館は磚(レンガ)と木でできており、南方民居の風格で、典型的な清代建築である。清代に建てられ、幾度もの修繕を経たが、なお古樸な風貌を保持している。寧化县重点文物保护单位に列せられている。」とある。だが、現在は故居を示す標識すらなく、図のような惨状であった。

翌日、县城から東へ32km程の湖村鎮張家湾にある蛟湖を訪れた。あいにくの曇天だったが、湖水はエメラルドグリーンに輝いている。面積は18畝というから1.2ha程しかないが、水深は200m以上あるそうだ。この周辺は石灰岩の特殊な地質で、近くには巨大な鍾乳洞群「天鷲洞」があ

る。この湖も湖底から水が湧き、晴れても旱れず、雨がふっても溢れず、「竜王潭」の別称がある。黄慎の詩集に『蛟湖詩鈔』があるように、この湖の傍らに書齋「蛟湖草堂」を作り、読書作画していたのである。近年新たに「黄慎紀念草堂」が建てられていた。なお、展覧会では山水の大幅「蛟湖読書図」(上海博物館蔵)も借用展示予定である。

午後、城中に戻り「黄慎墓」を訪ねることとした。インターネット上では墓地を訪問した記事は散見するものの、具体的な場所を示す記述に欠ける。「寧化城北郊1.5kmの茶畑を背にした果樹の山中で、東は黄河竜水庫に臨し、西は寧化から建寧に向かう公路(中環北路)に臨している」といった曖昧なものだけで、地図上で見るとかなり広い範囲である。近所の方に何うも知らず、タクシーで中環北路から東へ入る小路を一本一本探したが、夕刻になり断念した。翌朝、再び近くまで行ったところで、所在を知っているというご老人を発見、車に同乗して案内して頂いた。何と街道沿いの細道の最奥の養鶏場である。ここからは養鶏場の方に導かれ、その土地のさらに奥の道なき丘を越えたところに「黄慎墓」があった。地元の中学生在が命日に訪れるようで、周囲の草は刈られ整えられていた。だが南側斜面も刈られていれば墓から眼下に寧化城を見渡せていただろう。故居とともに、もう少し丁寧に保護して欲しいものである。

この他、寧化では揚州知府を務めた伊秉綬の故居と墓、長汀では黄慎の師、上官周の故居や学堂、上杭ではやはり「揚州八怪」の一人である華岳の故里や紀念館などを調査してきた。展覧会の会場や図録などで紹介することとしたい。

(弓野隆之)



黄慎像



黄慎故居



蛟湖



黄慎墓

## 没後50年 浪華の女性画家 島成園

2020年4月11日(土)－5月10日(日)

島成園(1892-1970)は、堺に生まれ大阪を中心に活躍した女性日本画家です。弱冠20歳で第6回文展に入選するなど早くから頭角を現し、さらには「美人画」の領域を越えた衝撃的な作品を発表して注目されました。当館には、画家本人および遺族から寄贈された88件の作品が所蔵されています。没後50年にあたり、それらの作品を通して成園の画業を振り返ります。大正期の大阪を駆け抜けた女性画家の輝きをご覧ください。

### ●記念講演会

4月25日(土) 午後2時-3時30分

テーマ:「島成園の作品と生涯」

講師:小川知子氏(大阪中之島美術館準備室 研究副主幹)

会場:大阪市立美術館 講演会室

定員:150名(先着順)

※申込不要、聴講無料ですが、当日の観覧券が必要です。

講演会当日の午後1時30分から整理券を配布します。

(左) 島成園《無題》大正7年(1918) 本館蔵(森本美津子氏寄贈)

(右) 島成園《伽羅の薫》大正9年(1920) 本館蔵(島成園氏寄贈)



## コレクション展

### おおさかの仏教美術3

2020年5月12日(火)－6月14日(日)

当館は開館以来、近畿をはじめとする寺社よりご宝物をお預かりしています。「おおさかの仏教美術」と題したこのシリーズ企画では、そうした寄託品のなかから、特に大阪府下の寺社よりお預りしたご宝物を中心に展示します。

寺社は人々の心のよりどころであると同時に、文化財保護の担い手としても重要な役割を果たしてきました。長い年月、この地で守り継がれた尊きものたちの姿をご覧ください。



重要文化財《当麻曼荼羅》(部分) 鎌倉時代・14世紀 大阪・実相寺

### 鳥獣草木 — 中国・朝鮮王朝の絵画

2020年5月12日(火)－6月14日(日)



作者不詳《豊干禅師図》  
朝鮮王朝時代・17-18世紀  
本館蔵(田万コレクション)

画中にみる動植物は、身近な観察を通して描かれた親しみある姿、あるいは豊かな想像力によって神秘的な力を宿した姿など多様にあらわされてきました。本展では、日本の絵画とゆかりの深い中国や朝鮮王朝時代の作例をご紹介します。多彩な生命の表情をお楽しみください。

### 古代エジプト コプトの美術

2020年5月12日(火)－6月14日(日)

コプトとは、エジプトにおけるキリスト教者、コプト教徒のことです。3世紀から12世紀頃にかけて、彼らは地中海文化の影響を受けた文様で衣類などを飾りました。本展では館蔵・寄託の染織や建築装飾を通して、コプトの美術をご紹介します。



《人面葡萄唐草文浮彫壁材》  
コプト 5-7世紀 本館蔵



《燃縄十字文綴織袖飾裂》(部分)  
コプト 7-8世紀 本館蔵

## ラブリー! ジャパン

2020年7月1日(水)ー7月13日(月) / 7月23日(木・祝)ー8月16日(日)

東京オリンピック・パラリンピック開催の前後、世界各国から大勢の人々が日本、そして大阪を訪れることでしょう。四季や名所の彩り、人々の暮らし、物語などに心寄せる絵画作品を中心に、愛すべき日本の美をご紹介します。



《伏見常盤絵巻》(部分) 室町時代・16世紀  
本館蔵(田万コレクション)

## 愉快奇怪 神獣図鑑：中国古代篇

2020年7月1日(水)ー7月13日(月) / 7月23日(木・祝)ー8月16日(日)

中国古代の青銅器などには怪物のような得体のしれない不可思議な生き物があらわされています。そのすべての意味が解明されているわけではありませんが、本展では文様やかたちをひとつひとつ読み解きながら、古代の人々の豊かな想像力を追体験します。夏休みの自由研究にもおススメです。



《青銅 辟邪型水滴》 三国時代・3世紀  
本館蔵(山口コレクション)

## 愉快奇怪 神獣図鑑：やきもの篇

2020年7月1日(水)ー7月13日(月) / 7月23日(木・祝)ー8月16日(日)

古来やきものには、龍、鳳凰、獅子などの想像上の動物があらわされてきました。もともとは権威の象徴や幸福への願いを込めた文様でしたが、しだいに定番文様として定着。威厳に満ちたものからかわいらしいものまで、愉快奇怪な神獣文様の世界をご堪能ください。



《染付 富嶽雲龍図皿》 江戸時代・19世紀  
本館蔵(田原コレクション)

## 琳派の草花図

2020年7月1日(水)ー7月13日(月) / 7月23日(木・祝)ー8月16日(日)

尾形光琳や酒井抱一など、琳派の絵師たちの作品は装飾的な画風に特色が見られます。そんな彼らの絵の中に、最もよく登場するものの一つが四季折々の草花です。「燕子花図」の修理完成を記念し、館蔵・寄託の優品から琳派による草花図を中心にをご紹介します。部屋を彩る華やかな世界をお楽しみください。



尾形光琳《燕子花図》 江戸時代・17-18世紀 本館蔵

## あおとき 青緑い刻

2020年7月23日(木・祝)ー8月16日(日) / 8月29日(土)ー10月18日(日)

新たな「風景」を創造しようとする洋画家たちの試みは、昔も今も自然生命との親密な対話から始まります。目に鮮やかな水や空の「青」、



椿貞雄《風景》 大正12年(1923) 本館蔵

生い茂る草木の「緑」に向けられたまなざしを、中国の青磁、青花磁器とのコラボレーションでご鑑賞ください。

## 中国の石造彫刻

2020年7月23日(木・祝)ー8月16日(日) / 8月29日(土)ー10月11日(日)

本館蔵山口コレクション中国石造彫刻を中心に、中国南北朝時代(5-6世紀)の仏像・道教像を展示いたします。

## 大阪の仏像

2020年7月23日(木・祝)ー8月16日(日) / 8月29日(土)ー10月11日(日)

当館では、関西を中心に百数十を数える寺社より、多くの宝物をご寄託いただいています。本展では、大阪の寺院に伝わる仏像を展示いたします。



《石造 道教三尊像》  
北魏・延昌四年(515)  
本館蔵(山口コレクション)



《木造 十一面観音菩薩立像》(部分)  
鎌倉時代・13世紀 大阪・四天王寺  
本館蔵

特別展

ようしゅうはっかい  
揚州八怪

2020年8月29日(土)－10月18日(日)

「揚州八怪」と聞いてすぐにピンときた方は、かなりの美術通です。日本ではあまり知られていませんが、揚州八怪の作品はとても親しみやすい中国の芸術です。乾隆皇帝が最盛期を実現した清時代・18世紀、塩業で繁栄した長江下流の揚州という都市には多くの芸術家たちが往来し、親交し、また競うようにしてその才能を発揮していました。文雅を愛する官吏や豪商の支援もあり、揚州はまさに芸術の都として華やきます。後世の批評家は、この街で活躍した数多くの芸術家のうち、書画で名を馳せた者を8人挙げて“揚州八怪”と呼びました。誰をエントリーするかは諸説あります。彼らの芸術はなぜ「怪」なのか？本展は国内過去最大の規模でその全容に迫ります。

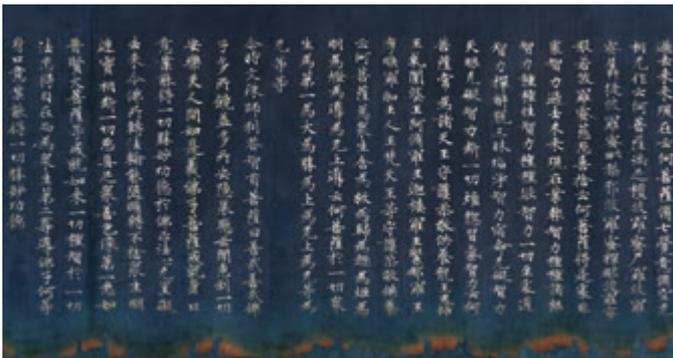


鄭燮《墨竹図》  
清時代・乾隆29年(1764) 上海博物館蔵

てんぴらうらいさん  
天平礼賛 (仮称)

2020年10月27日(火)－12月13日(日)

近年、我々の価値観や研究の土台を揺さぶるような言説がさかんにおこなわれています。万葉集が古典として扱われるのが近代以降のことと説くのも、その一例です。確かに美術の歴史も同様で、日本の美術史が体系化され、その中で奈良時代の美術を古典と位置付けるのは明治以降です。ところが、奈良時代の美術すなわち天平美術は時代を通じて常に立ち返り見直され続けてきた存在でした。本展では天平美術が絶えず振り返られ、そして新たな創造の源泉となってきた歴史を様々な分野の作品を通じてご紹介いたします。天平美術の本質に迫ることで、正倉院宝物や古寺の仏像が今なお我々を惹きつけてやまない理由が明らかとなるでしょう。ご期待ください。



《紺紙銀字 華嚴経断簡》(部分)  
奈良時代・8世紀 本館蔵(田万コレクション)

所蔵作品の貸出

他館への貸出を予定している本館所蔵作品です。展示期間などの詳細は各施設へお問い合わせください。

伝 仇英《九成宮図巻》(阿部コレクション)ほか 計2件

ロサンゼルス・カウンティ美術館(アメリカ)  
2020年2月9日(日)－5月17日(日)  
Where the Truth Lies : The Art of Qiu Ying



趙之謙《四時果实図》(阿部コレクション)ほか 計3件

大和文華館(奈良市)  
2020年2月21日(金)－4月5日(日)  
水のめぐみ 大地のみのりー野菜、果物、魚介の美術ー



森徹山《寒月狸図》

大阪歴史博物館(中央区)  
2020年2月26日(水)－4月5日(日)  
猿描ぎ狙山三兄弟ー鶏の若冲、カエルの奉時も  
※熊本県立美術館にも巡回



上村松園《晚秋》(住友コレクション)

東京富士美術館(八王子市)  
2020年2月29日(土)－4月12日(日)  
上村松園・松篁・淳之三代展



重文《小西家伝来・尾形光琳関係資料 衣裳図案帳》

東京国立博物館(台東区)  
2020年4月14日(火)－6月7日(日)  
きもの KIMONO



◆表紙作品紹介

《石造 如来坐像》

南北朝時代西魏・6世紀 本館蔵(山口コレクション)

満面の笑みを浮かべる如来坐像。口を開き舌を出しているようです。頭部が大きく厚ぼったい衣の表現など、なんとも素朴なすがたですが、独特な魅力がある1500年前の仏像です。

大阪市立美術館 天王寺公園内

Osaka City Museum of Fine Arts

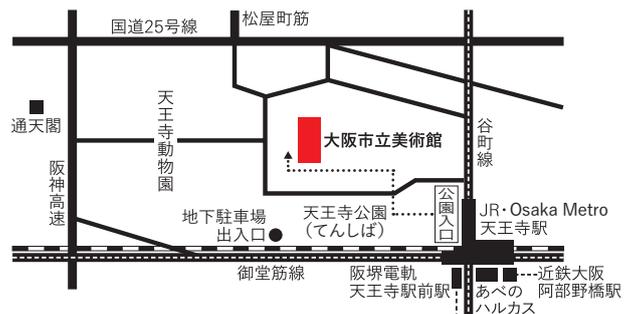
〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82

tel. 06-6771-4874 fax. 06-6771-4856

<https://www.osaka-art-museum.jp>

開館時間＝9:30～17:00(入館は16:30まで)

休館日＝月曜日(ただし月曜日が祝日の場合は翌平日)



交通案内:Osaka Metro 御堂筋線・谷町線、JR「天王寺」、近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」、阪堺電軌上町線「天王寺駅前」下車、または大阪シティバス「あべの橋」下車、北西へ約400m